

上水道施設維持管理業務特記仕様書

(目 的)

第1条 本仕様書は、上水道施設維持管理業務特記仕様書（以下「特記仕様書」という。）について、特に必要な事項を定めることにより、業務の円滑な遂行を図ることを目的とする。

(施設の概要)

第2条 施設の概要は「別紙：水道施設の概要」のとおりとする。

(上水道施設の巡回点検)

第3条 上水道施設の巡回点検内容は、次のとおりとする。

2 業務委託一般仕様書（以下「仕様書」という。）第26条第1号に係る巡回点検について定めるものとする。巡回点検を実施するにあたり、次の第6項第1号及び第2号に基づき、「週間点検日誌（仮称）」「月例点検日誌（仮称）」を仕様書第39条に基づき作成し、点検終了後発注者の監督員（以下「監督員」という。）に提出する。同様に、「上水設備点検報告書（仮称）」を作成し、異常等特筆すべき内容並びに監督員から特に指示があった事項についてはその都度、監督員に報告する。

3 「上水設備点検報告書（仮称）」にて報告された内容により、仕様書第26条第3号に基づき簡易な修繕等を実施する。実施した内容については、「上水道設備作業報告書（仮称）」を仕様書第39条に基づき作成し、監督員に提出する。なお、他業者（機械・電気等製造業者・専門業者等）による調整が必要と認められるもの、監督員から別の指示があるものについては、仕様書第26条第3号に基づく簡易な修繕等を実施しない。

また、「上水設備点検報告書（仮称）」にて報告した内容により仕様書第26条第3号に基づき簡易な修繕等を実施するにあたり部品・消耗品等が必要な場合は、仕様書第39条に基づき「手配依頼書（仮称）」を作成し監督員に提出する。

4 前項に係る部品・消耗品等については、発注者の負担とするが、カメラ、工具類、安全対策器具を含む備消耗品については、受注者の負担とする。

5 巡回点検に際し必要に応じ各種機器等の運転操作を受注者にて実施する。

(1) 週間点検においては、各種機器の運転操作並びに各機器の各号機への切替操作を基本とし実施する。

ただし、監督員から指示がある場合、また、特別な事情がある場合は、監督員と協議の上、切替操作を実施しない。

6 巡回点検にて実施した内容は、仕様書第37条の「月間業務完了報告書」に添付し発注者に提出する。

(1) 週間点検とは、以下に記す施設及び内容を1週間に1回以上点検するものをいう。

1) 対象施設：上郡系・配水系・中央監視装置

(川向水源地膜ろ過設備並びに新宮系中央監視装置除く)

①取水設備・送水設備

運転時間・運転電流・各種圧力・流量等の確認

外観、振動、異音、異臭、温度、変色、損傷、漏水等の確認

その他必要とする事項

②次亜注入設備

各槽の液位、補充、液漏れ、外観、振動、異音、異臭、変形、損傷、汚損等の確認
その他必要とする事項

③各種機械補完設備

運転電流・各種圧力・盤内状態等（無いものは除く）の確認

薬液・燃料等の漏れ、漏水、外観、振動、異音、異臭、温度、変形、損傷、汚損等の確認
その他必要とする事項

④受変電設備・配電設備・直流電源、無停電電源装置・監視制御装置・各種計器

・各種電気補完設備・遠方監視装置

計器の読み並びに振れ、外観、振動、異音、異臭、変色、変形、発錆、損傷、汚損等の確認
その他必要とする事項

⑤建屋・水槽、取水井等

外観、損傷、汚損等の確認並びに簡易清掃等（草抜きを含む）

その他必要とする事項（降雨期の電気マンホール等滞留水の確認および排出（必要時））

⑥水質測定

pH、残塩、水温、色・濁りの確認

⑦給水ユニット（第2配水池給水加圧設備のみ）

吐出圧力、運転時間、外観、振動、異音、異臭、温度、変形、損傷、汚損等の確認
その他必要とする事項

2）対象施設：川向水源地膜ろ過設備

①前処理施設

各種圧力、作動テスト等の確認

外観、振動、異音、異臭、温度、変色、損傷、漏水等の確認
その他必要とする事項

②原水ポンプ設備

運転電流、各種圧力、インバータ値等の確認

外観、振動、異音、異臭、温度、変色、損傷、漏水等の確認
その他必要とする事項

③主系膜ろ過装置・逆洗設備・回収膜ろ過装置

運転電流、各種圧力、インバータ値等の確認

外観、振動、異音、異臭、温度、変色、損傷、漏水等の確認
水質測定

その他必要とする事項

④空気圧縮機・給水ユニット

吐出圧力の確認

外観、振動、異音、異臭、温度、変形、損傷、汚損等の確認
その他必要とする事項

⑤薬品洗浄設備

貯留槽液位確認、槽内等の目視確認

その他必要とする事項

⑥排水設備

運転電流、放流流量等の確認

外観、振動、異音、異臭、温度、変形、損傷、汚損等の確認

水質測定

その他必要とする事項

⑦配電設備・監視制御装置・各種計装機器・各種電気補完設備

計器の読み並びに振れ、外観、振動、異音、異臭、変色、変形、発錆、損傷、汚損等の確認
チャート紙等の確認、取替等

その他必要とする事項

⑧建屋・水槽等

外観、損傷、汚損等の確認並びに簡易清掃等（草抜きを含む）

その他必要とする事項

⑨水質測定

pH、残塩、水温、色・濁りの確認

（２）月例点検とは、以下に記す施設及び内容を１カ月に１回以上点検するものをいう。

１）対象施設：上郡系・配水池系・中央監視装置（川向水源地膜ろ過設備を除く）

①送水設備

封水量・封水受け排水口のつまり、各配管の異常・軸受潤滑油の漏れ、量
グランドパッキン、軸の状態、止水状態、グリースの状態、漏れ、運転電流、
塵埃等の付着等

その他必要とする事項

②次亜注入設備

外部金属の発錆、接続部パッキンの劣化、貯槽内部、配管の亀裂、異常等
混合ノズルの結晶付着、エア抜き

その他必要とする事項

③補完設備（送風機設備）

運転電流

その他必要とする事項

④補完設備（各配管類）

目視点検

その他必要とする事項

⑤受変電設備

電圧、電流測定、トランス温度、蓄電池電圧

その他必要とする事項

⑥配電設備・各種計装機器・LCD監視制御装置・遠方監視制御盤・無停電電源装置等

各種計器読み、スイッチ類操作、ランプテスト、清掃等

その他必要とする事項

⑦建屋・水槽、取水井等

外観、損傷、汚損等の確認並びに簡易清掃等（草抜きを含む）

その他必要とする事項

2) 対象施設：川向水源地膜ろ過設備

- ①原水ポンプ設備・主系膜ろ過装置（循環ポンプ）・回収膜ろ過装置（循環ポンプ）・逆洗設備

振動測定、グラントパッキン、封水量、軸の状態確認

その他必要とする事項

- ②主系膜ろ過設備・回収膜ろ過設備

逆洗時水質測定、2次側圧力測定、高感度濁度計セル洗浄、エア抜き

その他必要とする事項

- ③薬品洗浄設備

電流値、吸込圧、目視、触診

その他必要とする事項

- ④建屋、水槽等

外観、損傷、汚損等の確認並びに簡易清掃等（草抜きを含む）

その他必要とする事項

3) 対象施設：新宮系

- ①取水設備・送水設備

運転時間、運転電流、各種圧力、流量等の確認

外観、振動、異音、異臭、温度、変色、損傷、漏水等の確認

給油、カップリングゴム確認、封水量、封水受け排水口のつまり、各配管の異常

その他必要とする事項

- ②次亜注入設備

液位、補充、液漏れ、吐出圧力等

外観、振動、異音、異臭、温度、変色、損傷、汚損等の確認

その他必要とする事項

- ③各種機械補完設備

薬液含め燃料等の漏れ、漏水、外観、振動、異音、異臭、温度、変形、損傷、汚損、ボールタップ、水位の確認等

その他必要とする事項

- ④受変電設備・配電設備・直流電源、無停電電源装置・監視制御装置・各種計器

・各種電気補完設備・遠方監視装置

計器の読み並びに振れ、外観、振動、異音、異臭、変色、変形、発錆、損傷、汚損等の確認

その他必要とする事項

- ⑤建屋、水槽、取水井等

外観、損傷、汚損等の確認並びに簡易清掃等（草抜きを含む）

その他必要とする事項

- ⑥水質測定

pH、残塩、水温、色・濁りの確認

なお、新宮系点検にあたり、受注者にて自動運転するためのバルブ開閉操作を行うものとす

る。

4) 対象施設：水位観測井施設

①自記水位計

毎月10日までに、水位観測井施設の用紙交換並びに動作確認、3月に1回の水位調整、6月に1回の電池交換。必要に応じ、インク交換。

その他必要とする事項

(参考) 水位観測井施設までの巡回距離

上郡町内(4箇所) 播磨高原浄化センターを起点として25km(往復)

新宮町内(3箇所) 播磨高原浄化センターを起点として30km(往復)

点検時間：1箇所当たり20分程度

(上水道施設の点検整備)

第4条 仕様書第26条第2号に係る各施設の点検整備について定めるものとする。各施設の点検整備を実施するにあたり、次の第4項第1号及び第2号に基づき、「定期点検記録簿(仮称)」、「点検記録簿(仮称)」を仕様書第39条に基づき作成し、点検終了後監督員に提出する。あわせて、「上水設備点検報告書(仮称)」に異常等、特筆すべき内容並びに監督員から特に指示があった事項について記述し、その都度監督員に提出する。

2 「上水設備点検報告書(仮称)」にて報告された内容については、前条第3項と同様に履行する。また、費用負担については、仕様書第26条第2号3のとおりとする。

3 各施設の点検整備に際し、必要に応じ各種機器等の運転操作を受注者にて実施する。ただし、監督員から指示がある場合、また、特別な事情がある場合は、監督員と協議の上、運転操作を実施しない。

4 各施設の点検整備で実施した内容は、仕様書第37条の「月間業務完了報告書」に添付し発注者に提出する。なお、各施設の点検整備のうち年次点検整備にて実施した内容は、「年次点検結果報告書(仮称)」として各年度末毎にとりまとめ監督員に報告する。「年次点検結果報告書(仮称)」の提出方法については、監督員と協議する。

(1) 定期点検整備とは、以下に記す施設内設備の点検を1年間に定期的に4回もしくは2回を標準として実施し、消耗部品の交換を行う。なお、交換部品については、主な取替部品を列記しているが、その他交換が必要とされる消耗部品並びに監督員の指示するものについては原則交換を実施する。

なお、他業者(機械・電気設備等製造業者・専門業者等)による調整が必要と認められるもの、監督員から指示があるものについてはこの限りではない。

1) 対象施設：川向水源地・域内中継ポンプ場

①送水設備(緩閉逆止弁)各4回/年

外観、油量、漏れ、閉動時間、軸の戻り、圧力変動等の確認

その他必要とする事項

2) 対象施設：川向水源地、域内中継ポンプ場、第1配水池、第2配水池、第3配水池

①各種計器(pH計、残塩計、濁度計)各4回/年

ア) 共通項目

外観点検

配線、配管の状態、傷、汚れ、ひび割れ、腐食等、チューブ、全般清掃

変換部点検

端子、ネジ類の緩み増し締め、水防栓のケーブル押え

その他必要とする事項

イ) pH計

外観点検

KCL 量、気泡、チューブ確認及び補給

変換部

乾燥剤補充、警報動作確認、洗浄動作確認、水防栓ケーブル押えの確認

検出部

ホルダ水漏確認、接続・締付確認、ガラス電極清掃、ジャンクション清掃、
測温抵抗体測定

組合わせテスト

洗浄効果、90%応答・再現性確認

その他必要とする事項

ウ) 残塩計

変換部点検

パラメータの記録

検出部

セラミックビーズの洗浄、測定槽清掃、回転金電極の研磨、接触導通部清掃
対極清掃測温抵抗体測定、メカ部分清掃

動作テスト

再現性確認、サンプルによる合わせ込み校正

その他必要とする事項

エ) 濁度計（川向水源、域内中継ポンプ場のみ）

変換部

ダンピング機能確認、受光素子・レンズ清掃、ランプ電圧確認

検出部

配管・バルブ・液槽部等の水漏れ確認、水流セル・脱泡槽清掃、標準校正板校正

組合せテスト

洗浄動作、標準校正板によるテスト

その他必要とする事項

オ) 交換部品

pH計：ガラス電極、ジャンクション、乾燥剤

残塩計：セラミックビーズ、回転金電極

濁度計：ランプ

その他定期点検整備にて交換が必要となった部品

- 3) 対象施設：川向水源地、川向水源地膜ろ過設備、域内中継ポンプ場、第2配水池、
新宮新水源地、曾我井水源地

- ①次亜注入設備 監督員と協議の上適宜実施する。

注入点清掃（川向水源地、川向水源地膜ろ過設備各2回／年、域内中継ポンプ場、第2配水池、新宮新水源地、曾我井水源地各1回／年を予定、閉塞等なければ実施しなくてもよい。）

4) 対象施設：上郡系中央監視装置、新宮系中央監視装置

①LCD監視制御装置 必要の都度

プリンタートナーカートリッジ交換、用紙補充

(2) 年次点検整備とは、以下に記す施設内設備の点検を1年間に1回を標準として実施し、消耗部品の交換を行う。なお、交換部品については主な取替部品を列記しているがその他交換が必要とされる消耗部品並びに監督員の指示するものについては原則交換を実施する。なお、他業者（機械・電気設備等製造業者・専門業者等）による調整が必要と認められるもの、監督員から指示があるものについてはこの限りではない。

1) 対象施設：川向水源地、曾我井水源地、新宮新水源地

①取水設備（取水ポンプ・真空破壊ポンプ・その付属設備）

低圧回路絶縁測定、運転時間、運転電流、各種圧力、流量等の確認

その他必要とする事項

2) 対象施設：川向水源地、上郡第1中継ポンプ場、域内中継ポンプ場、曾我井水源地、

新宮新水源地、第1中継ポンプ場、第2中継ポンプ場

①送水設備（送水ポンプ）

吸込圧力、吐出圧力、運転電流、送水流量、振動測定（垂直、水平）騒音測定、潤滑油入替、発錆箇所整備、カップリングゴム確認、グランドパッキン確認

その他必要とする事項

ア) 交換部品

カップリングゴム、グランドパッキン

その他年次点検整備にて交換が必要となった部品

3) 対象施設：川向水源地、川向水源地膜ろ過設備、域内中継ポンプ場、第1配水池、第2配水池、

第3配水池、曾我井水源地

①給水ユニット、サンプリングポンプ

メカニカルシール目視確認、モータベアリング異音確認、絶縁抵抗測定、制御盤内清掃、各端子増締め、各表示灯確認、スイッチ類作動確認、マグネット接点確認、補助リレー外観、基盤類外観、保護装置設置値読み、圧力タンク内圧確認（低下している場合規程値まで補充）、運転状態確認

その他必要とする事項

ア) 交換部品

圧力スイッチ、メカニカルシール、Oリング

その他年次点検整備にて交換が必要となった部品

4) 対象施設：川向水源地、川向水源地膜ろ過設備、曾我井水源地

①次亜注入設備（次亜注入設備）

ア) ポンプ部：ポンプ本体一式確認、アウターパイプ確認、吐出パイプ確認

Oリング確認、ベアリング確認

イ) 駆動部：作動状況確認

- ウ) 薬液槽：外観確認
 - エ) 注入管：外観確認
 - オ) その他必要とする事項
 - カ) 交換部品
 - リング、ポンプ部グランドパッキン、吐出パイプ、
 - その他年次点検整備にて交換が必要となった部品
- 5) 対象施設：域内中継ポンプ場
- ①次亜注入設備（次亜注入設備）
 - ア) 注入機：薬液の漏れ確認、注入状態の確認、ホースの状態確認、ダイヤフラムの確認、ボールバルブの確認、バルブシートの確認、ヘッド部の確認、ソレノイド作動確認、異音の有無、注入弁の確認、フロート作動状態の確認、圧力計確認、ストローク長ダイヤル確認、各コネクター確認
 - イ) 薬液槽：外観確認、レベルゲージ確認、ホース内エア抜き
 - ウ) 全般：各部ゆるみ、動作確認、液漏れ、吐出量測定
 - エ) その他必要とする事項
 - オ) 交換部品
 - IN・OUTホース、ダイヤフラム、バルブシート、ボールバルブ
 - その他年次点検整備にて交換が必要となった部品
- 6) 対象施設：第1配水池、第2配水池、新宮新水源地
- ①次亜注入設備（次亜注入設備）※但し、ウ)の薬品ストレーナーは、新宮新水源地は除く。
 - ア) 電磁ポンプ：ボディの外観確認、ダイヤフラム確認、各部○リング確認、出入口逆止弁確認、ダイヤフラムヘッド確認、ヘッド取付ボルト確認、ホース確認
 - イ) サイフォン逆止弁：ボディ確認、ボール弁確認、各部○リング確認
 - ウ) 薬品ストレーナー：ボディ確認、フィルターカートリッジ確認、各部○リング確認
 - エ) 検流管：ボディ確認、各部○リング確認
 - オ) 薬液タンク：外観確認
 - カ) 全般：光電スイッチ動作確認、配管確認、各部ゆるみ、動作確認、液漏れ、吐出量測定
 - キ) その他必要とする事項
 - ク) 交換部品
 - リング、ダイヤフラム、ホース類
 - その他年次点検整備にて交換が必要となった部品
- 7) 対象施設：上郡系、新宮系、配水池系（上郡系のうち川向水源地膜ろ過設備を除く）
- ①各種機器補完設備（電動弁、手動弁）
 - 各部の緩み、振動、弁棒塗油、開閉確認（可能なものに限る）
 - その他必要とする事項
- 8) 対象施設：上郡系、新宮系（調整池を除く）配水池系（第2配水池のみ）
- ①各種機器補完設備（チェーンブロック）
 - 作動状況確認、目視による錆、腐食、摩耗、フックの変形並びに開き

その他必要とする事項

9) 対象施設：上郡系、新宮系（調整池を除く）配水池系

①機械換気設備（送・排風機、換気扇）

ベアリング異音確認、制御盤内清掃、各表示灯確認、スイッチ類作動確認、作動状況確認、目視による錆、腐食、摩耗、ベルトの張り

その他必要とする事項

10) 対象施設：第3配水池

①緊急遮断弁

ア) 本体バルブ：目視確認、各部ボルト緩み確認、フランジ部確認、軸受部確認

イ) 自重閉止機構：目視確認、各部ボルト、ピン緩み確認、リンク機構の回転動作確認

ウ) 緩衝装置：目視確認、油量確認、遮断時間測定、目盛読み取り

エ) ストップ機構：目視確認、全開リミットスイッチの動作確認、手動レバー操作動作確認

スペースヒータ確認、カバーの取付状態確認

オ) 手動操作機：目視確認、ハンドル操作動作確認、弁体開度表示確認、油漏れ確認

カ) 制御盤：基礎ボルト確認、目視確認、ヒューズの状態確認、照明確認、

スペースヒータ動作確認、タイマ設定確認

キ) 直流電源装置：電圧、電流値読み、出力電圧測定

ク) その他必要とする事項

11) 対象施設：上郡系、新宮系、配水池系

①配電設備、遠方監視設備、各種計器、各種電気補完設備

ア) 低圧回路絶縁測定

各送水ポンプ盤、取水ポンプ盤、サンプリングポンプ盤、計装監視盤、換気ファン操作盤、分電盤、次垂注入設備制御盤、排水ポンプ盤、次垂注入設備、バルブ制御盤、受電盤、その他必要な施設

イ) 建屋接地抵抗測定

川向水源（膜ろ過棟含む）上郡第1中継ポンプ場、域内中継ポンプ場、第1配水池、第2配水池、第3配水池、曾我井水源、新宮新水源、第1中継ポンプ場、第2中継ポンプ場、調整池

その他必要な施設

ウ) 避雷針接地抵抗測定

第1配水池、第2配水池

エ) 電磁流量計絶縁抵抗測定

各送水流量計、各取水流量計、下水放流流量計、流入流量計、各配水流量計

その他必要な施設

なお、上記測定の結果絶縁抵抗値が低い箇所については、監督員と協議の上、測定頻度を増やし経過測定を実施することがある。

12) 対象施設：川向水源地膜ろ過設備

①循環流量計、逆洗流量計、ろ過流量計

外観、ゼロ点確認、電流出力値の確認、0%、50%、100%確認、配線確認、校正

その他必要とする事項

②循環行き圧力計、循環戻り圧力計、原水圧力計

外観、ゼロ点確認、電流出力値の確認、ディストリビュータ外観点検、
ディストリビュータ特性試験、0%、50%、100%確認、配線確認、校正
その他必要とする事項

③空気作動弁

外観、開閉作動時間測定、調整
その他必要とする事項

④膜ろ過制御盤・計装盤、回収用制御盤・計装盤

外観、盤内点検、シーケンサ点検（外観、バッテリー交換）盤内点検
その他必要とする事項

⑤膜ろ過電磁弁盤・回収用電磁弁盤、補助継電器盤

外観、盤内点検、清掃
その他必要とする事項

⑥インバータ盤

外観、盤内点検・清掃、端子部増し締め
その他必要とする事項

⑦空気圧縮機

オートドレントラップ点検清掃、吸込ろ過器点検清掃、エアドライヤー・放熱板点検清掃
エレクトラップ点検清掃、圧力計・安全弁・圧力開閉器動作確認、Vベルト点検、
逆止弁、ゴムホース漏れ点検、露天温度計動作確認、ボルト・ナット・ネジ類緩み確認、
動作確認（振動・音・制御状態）、防振ゴム確認、運転時間
その他必要とする事項

⑧第2種圧力容器点検

本体確認（胴・鏡板・安全弁・圧力計）確認、ふた確認、管及び弁確認
その他必要とする事項

⑨原水ストレーナー

外観点検、制御盤点検・清掃、動作確認、凍結防止用ヒータ確認
その他必要とする事項

（上水道施設の簡易な修繕等）

第5条 仕様書第26条第3号に係る簡易な修繕等について定めるものとする。受注者は、仕様書第26条第3号による簡易な修繕等を実施したものについて、「上水道設備故障報告書（仮称）」を仕様書第39条に基づき作成し、故障内容並びに対処した内容等を記入した上で監督員に報告する。

2 受注者は、仕様書第26条第3号による簡易な修繕等のうち状況確認について以下のとおり実施する。

（1）点検整備等により発見した故障・不良箇所等については、判明した時点で応急処置等最低限の対処が出来るかどうかの確認程度とするが、詳細が判明しない場合は、後に実施する簡易な修繕等もしくは、機械・電気設備等製造業者・専門業者（以下「他業者」という。）に発注するための資料を監督員と協議の上、巡回点検等を利用し収集する。あわせて、受注者の勤務時間内に突発的に発生

した故障等についても同様の作業を実施する。

(2) 受注者は、前号の結果を「上水道設備点検報告書（仮称）」を仕様書第39条に基づき作成し、原因は何か、受注者にて簡易な修繕等にて対応可能か、受注者にて対応可能であるが別途費用を要するものか、他業者に依頼すべきか詳細に記入した上で報告する。

(3) 前号のうち受注者にて対応可能であるが、別途費用を要するものについては、監督員と別途協議する。

3 受注者は、前項各号による状況確認により後日、受注者により勤務時間内に修理可能、部品交換可能と判断したものに限り、監督員と協議し簡易な修繕等を実施する。

4 受注者は、前項による対処が出来る場合で、部品等を必要とする場合は、完成図書等を調査の上、第3条第3項にて作成した「手配依頼書（仮称）」にて必要部品等を依頼する。なお、他業者による調整が必要と 受注者が認められるもの、監督員から別の指示があるものについては実施しない。

5 前項に係る修繕や調整に必要な材料、部品、資材等については発注者の負担とするが、カメラ、工具類、安全対策器具を含む備消耗品については受注者の負担とする。

6 本条第3項の結果により、受注者にて修理、部品交換を実施した場合は、その結果について「上水道設備作業報告書（仮称）」に記入し監督員に報告する。

7 本条に係る作業は、年間40回を標準とし、1回あたりの作業時間は1.5時間程度とする。

8 受注者の簡易な修繕等における対応が年間を通し明らかに増となる場合は、その取り扱いについて受注者より発注者に対し協議することができる。なお、受注者の不注意等により簡易な修繕等の対応を実施とした場合は除くものとする。

（上水道施設の立会業務）

第6条 仕様書第26条第4号に係る立会業務について定めるものとする。

2 立会業務の結果は、その都度監督員に報告し、仕様書第37条の「月間業務完了報告書」に添付する。

3 本条に係る業務は、年間10回を標準とし1回あたりの時間は6時間を標準とする。

4 前項の他に、発注者が実施する作業の補助を依頼することがある。その場合、受注者はこれに応じなければならない。

5 受注者の立会業務における対応が年間を通し明らかに増となる場合は、その取り扱いについて受注者より発注者に対し協議することができる。

（上水道施設の薬品等管理業務）

第7条 仕様書第26条第5号に係る薬品等管理業務について定めるものとする。水道施設において購入する薬品納入時の立会、在庫管理、指定する集約施設からの小移動並びに薬液槽への補充等を行うものとする。なお、この薬品等管理業務に係る薬品費の費用負担は、発注者で負担する。

（1）次亜塩素酸ナトリウム

水道用消毒剤として購入する。品質低下を考慮し、1カ月に1度程度購入するよう計画し、第3条第3項の「手配依頼書（仮称）」を監督員に提出する。また、納入場所並びに納入日時については監督員と協議の上決定する。施設ごとに年間の納入、使用実績を記録した書類を作成し、年度末に提出する年間業務完了報告書にて提出する。

なお、年間業務完了報告書に添付する各種様式については、仕様書第 3 9 条に基づき監督員と協議の上決定する。

(2) 残塩測定用 DPD 液体試薬

水道用残塩測定用として貸与した「ポータブル DPD 残留塩素測定器」の試薬として使用する。使用頻度を考慮し計画性を持ち購入を監督員に依頼する。なお、依頼する様式については、第 3 条第 3 項の「手配依頼書（仮称）」を使用する。

(上水道施設の自動通報システムの対応)

第 8 条 仕様書第 2 3 条第 6 号に係る上水道施設自動通報システム（以下「自動通報システム」という。）の対応について定めるものとする。

2 受注者の勤務時間並びに勤務時間外における自動通報システムの受信、初期対応並びに発注者への連絡業務とする。

3 自動通報システムより通報があった際は、受注者は、速やかに中央監視装置または第 2 配水池給水加圧設備はクラウド画面により状況を確認し、対処が必要な場合は当該施設に赴き、勤務時間内であれば第 5 条第 2 項に基づき状況確認を実施する。

また、勤務時間外においても、勤務時間内と同様に、速やかに中央監視装置または第 2 配水池給水加圧設備はクラウド画面により状況を確認する。なお、対処が必要な場合は、当該施設に赴き応急措置等最低限の対処が可能か状況確認を行い可能であればその対処を実施する。

ただし、状況確認の結果受注者では対処できない場合及び、その施設からの供給が出来ない重大な不具合が伴う等緊急性を要する場合は、監督員に連絡し、その指示に従うこと。実施した内容については、仕様書第 3 9 条に基づき「上水自動通報システム対応記録等報告書（仮称）」を作成し対処した内容を記入した上で報告する。

4 受注者は、前項のうち、勤務時間外に発生した応急措置等最低限の対処後の対応については、勤務時間内に第 5 条第 2 項に基づき状況確認を実施する。

5 受注者は、前項の状況確認により対処が出来る場合、第 5 条第 3 項に基づき監督員と協議し簡易な修繕として実施する。

6 前項に係る修繕や調整に必要な材料、部品、資材等については発注者の負担とするが、カメラ、工具類、安全対策器具を含む備消耗品については受注者の負担とする。

7 本条第 5 項の結果により、受注者にて修理、部品交換を実施した場合の報告は、第 5 条第 6 項に基づき「上水道設備作業報告書（仮称）」に記入し監督員に報告する。

8 自動通報システムの対応に係る各種条件並びに内容は以下のとおりとする。

(1) 受注者の勤務時間外とは、発注者の時間外並びに休日と同様の扱いとする。ただし、受注者の勤務体系並びに体制の制限を設けたものではない。発注者の休日とは、日曜日、土曜日及び国民の祝日に関する法律に規定する休日並びに、1 2 月 2 9 日から翌年 1 月 3 日までの日。発注者の時間外とは、休日を除く職員の勤務時間午前 8 時 3 0 分から午後 5 時 1 5 分を除くものとする。

(2) 本条第 3 項に定める最低限の対処とは、予備機等があるものについては、予備機への切替、その他については、簡易な作業で応急復旧等が可能な範囲のものとする。

(3) 自動通報システムからの受信内容並びに対処内容を自動通報システム対応毎に速報として報告する。また各月の末に集計し、仕様書第 3 7 条の「月間業務完了報告書」に添付する。

- (4) 自動通報システムの対応は、播磨高原広域事務組合上水道施設及び下水道施設の維持管理業務にて配属される受注者の職員で構成する。
- (5) 自動通報システムの対応は、受注者において当番制として担当者を決定することが出来る。その担当者の氏名、緊急連絡先を監督員に対し仕様書第35条に定める「月間維持管理計画書」に添付しなければならない。ただし、発注者が自動通報システム対応の担当者として不適格と認めた場合は、発注者が担当者の交代を指示することができ、受注者はそれに応じなければならない。
- (6) 受注者の勤務時間外における自動通報システムの受信回数は、1年間当たり10回を標準とし1回当たりの当該施設の状況確認並びに応急復旧等必要な最低限の対処に要する作業時間は、2時間程度（自宅等から事務室等の移動時間は除く）とする。
- (7) 受注者の勤務時間外における自動通報システム対応の担当者は常に受信、対応業務、発注者への連絡ができる体制をとらなければならないが、特に活動の制限を設けるものではない。
- (8) 受注者の時間外における自動通報システム対応が年間を通し明らかに増となる場合は、その取り扱いについて、受注者より発注者に対し協議することができる。なお、受注者の不注意等により時間外の自動通報システムの対応を実施した場合は除くものとする。

（上下水道事業所時間外及び休日における電話受付・連絡業務）

第9条 仕様書第26条第7号に係る上下水道事業所時間外及び休日における電話受付・連絡業務について定めるものとする。

- 2 発注者の時間外及び休日における電話受付並びに発注者の各担当者（以下「担当者」という。）への事務連絡を実施する業務とする。料金関係等に関すること並びに、上下水道施設に関することを電話で受付し発注者に対し受付した内容を直ちに連絡する。

電話受付により受けた内容並びに対応状況を各月の末に集計し、仕様書第37条の「月間業務完了報告書」に添付する。

- 3 各種条件は以下のとおりとする。

- (1) 電話受付並びに担当者に対する連絡は携帯電話を使用し、組合が1台貸与する。その携帯電話に係る、月額料金、利用料についての費用は、発注者が負担する。
- (2) 貸与する携帯電話は、受注者にて適正に管理し、私的に利用することは禁止する。
- (3) 電話受付者は常に電話受付並びに担当者への連絡ができる体制をとらなければならないが、特に活動の制限を設けるものではない。
- (4) 発注者の時間外並びに休日とは、第8条第8項第1号のとおりとする。
- (5) 電話受付回数は、1年間当たり1回を標準とする。
- (6) 電話受付者は、播磨高原広域事務組合上水道施設及び下水道施設の維持管理業務にて配属する受注者の職員で構成する。
- (7) 電話受付者は受注者において当番制として決定することが出来る。その受付者の氏名、緊急連絡先を監督員に対し仕様書第35条に定める「月間維持管理計画書」に添付しなければならない。ただし、発注者が電話受付者として不適格と認めた場合は、発注者が受付者の交代を指示することができ、受注者はそれに応じなければならない。
- (8) 電話受付業務が年間を通し明らかに増となる場合は、その取り扱いについて受注者より発注者に対し協議することができる。

(その他の部品・消耗品等)

第10条 受注者は、本特記仕様書に記されたもの以外に本業務委託範囲にて取替・交換が必要な部品・消耗品等が発生した場合は、第3条第3項の「手配依頼書(仮称)」にて必要とする部品・消耗品等を依頼する。部品・消耗品納入後、受注者にて部品・消耗品等の交換を実施する。費用負担については第3条第4項のとおりとする。

2 前項に係る結果については、仕様書第37条の「月間業務完了報告書」に添付する。

(疑義)

第11条 本特記仕様書に疑義が生じた場合又は、定めのない事項が生じた場合は、発注者、受注者協議の上定めるものとする。

(雑則)

第12条 本特記仕様書に明記されていない事項であっても、維持管理上当然必要な業務等は、良識ある判断に基づいて行わなければならない。

2 当該業務にかかわる資料の提出を、発注者が要求した場合は、速やかに応じなければならない。